



立ち上がる。その行動が世界を動かす力になる。



STAND UP

スタンド・アップ キャンペーン
参加のてびき





— 目次 —

1、はじめに

2、STAND UP TAKE ACTION とは

3、キャンペーンに参加しましょう

I. 参加方法

II. イベントを企画してスタンドアップする

III. 学校でスタンド・アップする

IV. 職場でスタンド・アップする

4、「立ち上がり STAND UP」、

「行動 TAKE ACTION」しましょう

I. 伝えましょう

～「あなた」からはじめましょう～

II. 「政府」に 私たちの声を届けましょう

～「みんな」の声を合わせましょう～



1 はじめに

私たちの世代で貧困を終わらせよう！

世界では、約 12 億人の人が 1 日 1.25 ドル未満の貧困ライン以下で暮らしています。

貧困をなくすために、私たちのリーダー、各国の代表者たちは全力で取り組んでいるのでしょうか？

答えはノーです。だからこそ私たちが立ち上がって、リーダーたちが 2000 年の「約束」を果たすようにすることが必要です！

声をあげて立ち上がりましょう！

2000 年に約束されたミレニアム開発目標を掲げた 189 カ国のリーダーたちは、「貧困を 2015 年までに半減すること」を約束し、最も過酷な状況におかれている貧しい国の人々を貧困から解放すると言いました。その 8 つの目標とは、途上国と先進国が一緒になって取り組むことが不可欠な目標なのです。

ミレニアム開発目標は、世界がともに取り組むよう協力を求めたものであり、

「この時代で最も重大な問題を解決していく」ための、8 つの目標です。





世界のリーダーたちがこの目標達成を目指すように 「わたしたちの意志」を表しましょう！

「国際社会の資金、知識、能力、技術がそろっていれば、目標の達成は簡単だ。」もしかしたら、そう思うかもしれません。しかし、それらのリソースが目標達成のために十分活用されていない現実があり、世界の約12億人の人は1日1.25ドル未満という困難な生活を余儀なくされ、成人の6人に1人にあたる約8億人が字を読むことも書くこともできないでいるのです。

重大な問題を解決していくために…

あなたにできることは？

「世界の問題に対して、動くのは政治家の役目だし…」

「自分にできることは何もないし…」

そんなことはありません

「目標」を達成するためには、世界中の人が協力する必要があります。協力し合い、目標が実現するのを見届けることが大切なのです。

約束が守られず苦しんでいる人に対して、手を差し伸べて欲しいのです。また、家族・友達・周りの人たちの助けが必要なのです。2015年を“貧困をなくす年”にするために、私たちが行動を起こす必要があるのです。

それは、この世界を変えるチャンスなのです！



2 STAND UP TAKE ACTION とは



MDGs の達成、「貧困をなくしたい」という意志表明のため、世界中の人々が一齐に立ち上がるアクションが 2006 年に始まった STAND UP(スタンド・アップ)です。

2009 年には世界で

1 億 7000 万人以上（世界人口の約 2 %）がこのアクションに参加し、

2006 年から更新してきたギネス記録を塗りかえました。

このアクションは、場所を問わず、2 人いれば実施できます。うち 1 人は、スタンド・アップをしたことの証人となります。多くの人々が、学校・職場の友だちや家族とともに貧困解決のために行動を起こしています！





多くの人々がアクションに参加すれば、リーダーたちは私たちの声を無視することができなくなります。想いを集めて立ち上がり、「貧困を無くしたい」というメッセージを世界中に届けましょう！



8つの目標＝「ミレニアム開発目標（MDGs）」とは？

2000 年 9 月の国連ミレニアムサミットで採択された「国連ミレニアム宣言」に基づき取り決められた、貧困のない世界を実現するためのグローバルな目標です。

世界 189 カ国のリーダーが、2015 年までに「世界の貧困を半減すること」等を決めました。

しかし、12 年経った現在も全目標の達成は大変難しいと言われています。その理由としては、開発途上国への資金援助が不十分で、技術協力もなかなか進まないことなどが挙げられます。

「8つの目標」とは？ ミレニアム開発目標(MDGs)について知ろう！

ミレニアム開発目標＝Millennium Development Goals (MDGs)

とは、貧困のない世界を実現するための、世界が決めた約束です。

世界で起こっている貧困・教育・医療などの問題解決を目指して掲げられ、カラフルなロゴで表された、具体的な 8 つの目標です。

次のページをご覧ください。

【目標 8】は、「世界の一員として、先進国『も』責任を果たそう」です。

先進国に住んでいる人々は、国のリーダーがこの 8 つの目標達成の実現に向けてきちんと取り組み組んでいるのかを確認しなければなりません。



【目標１】 とてつもない貧困と
飢えをなくそう



【目標２】 みんなが小学校に
通えるようにしよう



【目標３】 ジェンダーの平等を進めて
女性の地位を向上させよう



【目標４】 子どもの死亡率を下げよう



【目標５】 女性が健康な状態で妊娠し、
子どもを産めるようにしよう



【目標６】 ＨＩＶ／エイズ、マラリア、その
他の病気が広がるのを防ごう



【目標７】 環境の持続可能性を確
保しよう



【目標８】 世界の一員として、先進国
「も」責任を果たそう





2012 年現在、世界の現状はどうなっているのでしょうか？

食料価格の高騰・地球温暖化により**今でも 9 億 2500 万人が飢餓に直面し、1 年間で 760 万人の 5 歳未満の子どもたちが**、助かるはずの病気で命を落としています。こうした状況の中、多くの分野で目標達成が危ぶまれています。

一方で、希望がないわけではありません。

2000 年以降、多くの「途上国政府」が教育予算を増やし、無料化に踏み切ったことで、2008 年に小学校に入学した子どもの数は、**1999 年に比べて 5200 万人増加**など、大きな成果がありました。

また、保健・医療分野でも、妊娠・出産が原因で亡くなる女性の数が、

1990 年の 54 万 3000 人から 2010 年には 28 万 7000 人へと大幅に減少。5 歳までに命を落とす子どもの数も減りました。

MDGs の実現にむけて、

「途上国政府」は、教育・医療などの予算を増やすこと、「先進国」は、取り組みを後押しすること。途上国自身の取り組みだけでなく、先進国の協力をさらに広げることが必要です。

各国政府が目標達成に向けきちんと取り組んでいるかを見守り、

私たちが、よりよい社会を目指し世界に働きかけるかどうか。

一人ひとりの行動が「**貧困のない世界**」を実現する大切な一歩となるのです。

世界 189 カ国のリーダーたちが約束した目標を達成して、**貧困のない世界を実現するために、**

「スタンド・アップ」を実施しましょう。



3 キャンペーンに参加しましょう

スタンド・アップは、2人から参加できるアクションです

I 参加方法

STEP 1 事前準備

① **メンバーを集めましょう** : 一緒に立ち上がるメンバーを集めましょう。

② **日時・場所を決めましょう** : “集まりやすい”時間・場所にしましょう。

参加人数が多いイベントにする場合は、場所を予約することも忘れずに。

(すでに企画されているイベントの1コマにするのもオススメです。

ライブイベントやフットサル大会、サークルイベントなどで、スペシャル枠を企画してください。)

③ **オフィシャルサイトに登録しましょう** : <http://www.standup2015.jp/>

★登録しなくても参加は可能ですが、登録すればメールマガジンの購読やチラシ・ポスターの取り寄せ(無料)ができます。

④ **広めましょう** :

イベントや、学校・職場などで多くの人を集めて行う場合には、

オフィシャルサイトから手に入れたチラシやポスター、または取り寄せたオリジナルのものを使って知らせましょう。

[twitter](#)、[facebook](#)、[mixi](#) で仲間を増やすこともできます。

⑤ **宣誓文をダウンロード** :

オフィシャルサイトより宣誓文をダウンロードできます。オリジナルの宣誓文をつくるのもオススメです。

⑥ **「テイク・アクション」の構想を練りましょう** :

立ちあがった後に貧困を終わらせるために自分に何ができるか、スタンド・アップ時に宣言することを考えましょう。オフィシャルサイトからダウンロードした「書き込みツール」に書き込むこともできます。





STEP 2 当日

<当日の流れ>

① **宣誓文を読みましょう**：みんなで一部分を交代で読み上げると良いでしょう。

② **「わたしのアクション」を宣言しましょう**

③ **みんなでスタンド・アップ！**

④ **スタンド・アップしている写真を撮りましょう**

※写真はオフィシャルサイトや報告書で紹介します。「ユニーク・スタンド・アップ フォトコンテスト」もあります。ユニークなスタンド・アップに挑戦してみませんか？

※また今年は、「ご当地スタンド・アップ」を対象とした「ご当地スタンド・アップ フォトコンテスト」を実施します。地域、コミュニティを意識して立ち上がった写真を募集します。

詳しくはこちら <http://www.standup2015.jp/join/index.html#gotouchi>

STEP3 報告

報告しましょう：オフィシャルサイトから実施報告をしてください。写真もここから登録できます。

※今年は、国際 NGO プランが呼びかける「Raise Your Hand～世界の女の子のために手を上げよう！～」と協力しています。詳細はウェブサイトで。 <http://www.plan-japan.org/girl/special/ryh/>

STEP4 スタンド・アップ直後

立ち上がったら、次は TAKE ACTION（行動）してみましょう！

立ち上がった後（STAND UPした後）も重要です。

今度は、自分に出来る身近なことから、行動（TAKE ACTION）していきましょう。

一緒に立ちあがった仲間や家族と、これから一緒にできることは何でしょうか？

具体例を参考に、やってみましょう。

<具体例はこちら>

I. 伝えましょう！ ～「あなた」からはじめましょう～ ……17P

II. 「政府」に私たちの声を届けましょう！ ～「みんな」の声を合わせましょう～ ……19P



Ⅱ イベントを企画してスタンドアップする

スタンド・アップには個人で参加もできますが、
イベントを開催し、より多くの人と共に立ち上がることもできます。

「もう少し、大勢でスタンド・アップできないかなあ・・・。」
「世界の貧困の現状をできるだけ多くの人々に伝えたい！」
「同じ思いを持った、仲間に出会いたい！」
そんなみなさんに。

ここでは、イベントの例をご紹介します。
以下の具体例を参考に、オリジナルのイベントを考えてみましょう！

○映像上映会

DVDの無料貸出しや YouTube、自主上映会用映像を利用
しましょう。



「Because I am a Girl」

～途上国に女の子として生まれて～

途上国 8 カ国で暮らす、それぞれの少女が抱える
問題にスポットをあてた作品。

「ネパールの女の子たちを守るのは誰？」

インドの人身売買の現状や、プラン・ジャパンの活動紹介。

「Is this life?」

～インドの女の子たちの現実～

性差別・結婚持参金・家庭内暴力などの問題と

そうした現状から抜け出し自立していく女性を取り上げている。

以上映像問い合わせ先：プラン・ジャパン <http://www.plan-japan.org/libraries/>

その他オススメ映像

「Garment Girls バングラデシュの衣料工場で働く若い女工たち」

女性に焦点をあてたドキュメンタリー。安価な商品を求める消費者に問題提起している。

問合せ先：シャプラニール＝市民による海外協力の会

<http://www.shaplaneer.org/news/2010/02/220-1.html>

「おいしいコーヒーの真実」

1 杯のコーヒーの裏に隠された、地球の裏側の人々の生活と世界の現実を探っている。

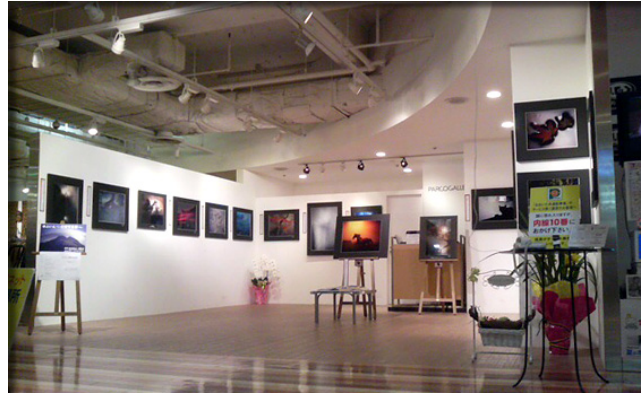
問合せ先：<http://www.uplink.co.jp/oishiicoffee/>



「ジャマイカ楽園の真実」

独立後、I M F（国際通貨基金）と世界銀行から多額の融資を受けたジャマイカが陥った苦境を、世界経済の中の共通の問題として捉えた作品。

問合せ先：<http://www.uplink.co.jp/jamaica/>



○トークイベント@ライブハウス、ホームパーティー、公園ピクニック

NGOの職員や専門家、途上国で生活したことのある人などをゲストに呼び、お話を聞く会を開きましょう。会場は、イベントスペースを借りて行う以外に、各国料理を持ち寄ったホームパーティーや公園でのピクニック形式にすると、楽しみながら参加でき、各国理解への第一歩となるかもしれませんね。

○写真展

NGOの写真パネル貸し出しサービスを利用するのが便利ですが、身の回りで途上国へ行ったことある人たちから写真を集めるのもオリジナルのものができて良いですね。会場としては、学校や地域センターなどの公共施設やカフェのレンタルスペースを利用したり、あるいは写真を展示するのではなく、スライドショーにしてみたりすると、自宅など限られた場所でも開催できます。

○音楽イベント

音楽ライブなどを開催し、そこでスタンド・アップをすることにより、それまで関心のなかった人たちにも知ってもらうきっかけを作れます。チャリティーライブ形式にし、集まったお金を貧困を終わらせるために活動しているNGOなどへ寄付をするのも、ひとつの方法です。



Ⅲ 学校でスタンド・アップする

< 小・中・高校生の例 >

スタンド・アップは、貧困について周りの人に知らせる機会であると同時に、貧困を解決するための一人ひとりの行動のきっかけともなります。

「スタンド・アップ教材」（オフィシャルサイトからダウンロードできます*）を参考に、貧困が生み出される背景や、MDGs などのさまざまな取り組みの意義を学ぶことで、世界の問題を知り、自分たちにできる行動を考えてみましょう。 *<http://www.standup2015.jp/download/index.html>

○教室で

貧困の現実や背景を知ることとはとても大切です。「スタンド・アップ教材」などを授業に活用してみましょう。

○学校行事で

ある高校では、文化祭で生徒会が中心になって全校生徒に呼びかけました。なぜこのキャンペーンが必要か、企画した生徒が説明したのち、全校でスタンド・アップを実施しました。

○部活動や委員会活動などで

ユネスコ部や国際協力委員会など、部活動や委員会で行うこともできます。ある高校では、部活動で貧困に関する授業を受けた後、生徒が放送やポスターで全校に呼びかけた結果、たくさんの生徒や先生がスタンド・アップに参加しました。



< 大学生・専門学校生の例 >

大学や専門学校でスタンド・アップを企画する際の案をご紹介します。

2006 年にスタンド・アップが開催されて以来、多くの大学生や専門学校生がスタンド・アップのイベントを企画しています。



学生の強みとは？

企画を成功させるために、まず「学生の強み」を知ることが大切です！

学生は、その他の人々に比べて、どのような強みがあるでしょうか？例えば以下の様なことが言えるかもしれません。

例①・・・学校という多くの人々が集まるコミュニティにいること。

例②・・・時間的余裕があること。

例③・・・学生の間で、国際協力や社会貢献への関心が高まっていること。



● 学生はその他の世代と比べて、学校という広いネットワークを持っています。

参加者の自主性や情報の広がりという点で、専門学校や大学におけるネットワークは、小・中学校及び高校と比べて、より有効と言えます。また、インターネットや携帯電話など、最新の情報媒体に強いことも、企画を広げるうえで大きな意味を持ちます。

● また社会人と比較した場合、一般的に、学生はより時間に余裕があると思われます。

スタンド・アップが開催される 10 月は、多くの専門学校や大学の夏休み明けの時期です。企画を行う学生は、夏休みに時間をかけて企画の準備を行うことができます。

上記の 2 点に加えて、近年の傾向として、

国際協力や社会貢献に大きな関心を持つ学生が増加していることがあげられます。

大学・専門学校では、「国際」と名のついた学校・専門領域に対する倍率が上がっており、国際協力に関連した学生のクラブ・サークル活動は増加しています。





どのような企画ができるでしょうか？

具体例

○食事会でスタンド・アップ

スタンド・アップの特徴に、立ち上がるという「日常的な行為」に思いを込めるという点があります。

友人や家族と食事をする際に、一緒にスタンド・アップを行うというのも一つの方法ではないでしょうか。

スタンド・アップの期間は、17 日間と半月以上あります。食事をする友だちに趣旨を説明し、一緒にスタンド・アップに参加することで、より多くの人を巻き込めます。



○通常活動にあわせて

クラブやサークルに参加している学生の場合、通常活動にあわせてスタンド・アップに参加できます。

- ・写真は活動紹介や新歓（リクルートメント）に活用
- ・ミレニアム開発目標(MDGs)や世界の貧困に関する勉強会

NGO ネットワーク「動く→動かす」では、スタンド・アップに向けた学校向け教材も用意しています。こうした、教材を用いて、クラブやサークル内で勉強会を行うこともできます。

*獨協大学 LINKs(2009)写真を使用。



○イベント企画団体の場合（学園祭実行委員会、学生会など）

イベント終盤にスタンド・アップを取り入れることで、スタンド・アップの企画を実施することが可能です。

スタンド・アップを通常のイベントとともに実施する場合は、しっかりとスタンド・アップの趣旨を説明し、賛同していただける方が参加できるようにしましょう。



Ⅳ 職場でスタンド・アップする

職場でスタンド・アップしたい！ さまざまな制限がある中、どう企画していけばいいのでしょうか？

「どうやって、告知をすればいいのか？」

「シフトがバラバラで集まることは困難・・・」

そういった課題をクリアし、スタンド・アップに参加いただいた企業の実例を、ご紹介します。

企業の実施例

○株式会社リコー

グループ会社（リコー北海道株式会社、リコージャパン株式会社、リコーテクノシステムズ株式会社、リコー三愛サービス株式会社など）に幅広く呼びかけていただきました。CSR 報告書にも実施結果が報告されています。



<担当者から>

「リコーグループが持つ技術力や人材などのリソースが社会の課題解決に貢献できる」という意識を広げるために、一人でも多くの社員にグローバルな課題である MDGs を知ってもらいたいと考え、2008 年から参加しています。2009 年は、各社・各事業所の担当者が積極的に呼びかけたことで多くの社員が参加しました。今年もより多くの社員に参加を呼びかけ、MDGs の浸透・啓発を図り、社会の課題解決に少しでも貢献できればと思っています。

（CSR 室スペシャリスト赤堀久美子様）





○ティンバーランド・ジャパン株式会社

アウトドアグッズを手がける同社では、本社に加えて店舗スタッフにも呼びかけてスタンド・アップに参加。また、本社では社内の導線となるコピー機周辺に告知や報告を掲示するなど、浸透に工夫を凝らしました。



<担当者から>

2009 年は事務所だけではなく、全国のTIMBERLAND ショップでも実施しました。「シフトがバラバラで集まることは困難では？」という心配をよそに、全員が協力し一体となり、このような形で社会に貢献できることに喜びを感じております。年に1度のこの時だけでも、豊かな日本に住んでいることに感謝するとともに、1人でも多くの方を貧困から救えればと願っております。

(マネージメント阿久根有紀様)

参加実績

これまでに多くの企業の方にご参加いただいています。

株式会社アイ・ユー・ケイ、朝日新聞社、アマタ株式会社、NEC ソフト株式会社、NEC、大分東洋ホテル、オリンパス株式会社、株式会社街波通信社、KeepAlive 株式会社、株式会社シマンテック、グレイワールドワイド、シチズンホールディング株式会社、ティンバーランド ジャパン株式会社、株式会社電通、株式会社トライ、株式会社博報堂、株式会社リコー、リコージャパン株式会社 ほか





4

「立ち上がり STAND UP」、 「行動 TAKE ACTION」しましょう

I.伝えましょう

～「あなた」からはじめましょう～

立ち上がったら、次は TAKE ACTION（行動）してみましょう。

あなたはなぜ今回、「スタンド・アップ キャンペーンに参加しよう」と思ったのでしょうか。
そのきっかけとなった気持ちを忘れずに。

まずは、その想いを「言葉」にしてみましょう。

そして、「世界で何が起きているのか?」、「なぜ立ち上がらなければならないのか?」
あなたが知っていることを、広めていきましょう。



※行動する（TAKE ACTION）ことがすぐに思い浮かばなくても、何ができるのかを考え続けることが重要です。
人と話をしたり、情報収集をしたりして考え続けることは更なる行動への一歩です。



どうやって、伝えればいいのでしょうか？

- ・ブログに STAND UP TAKE ACTION について書きましょう。
- ・「世界の貧困問題」について友だちや家族と話しましょう。
- ・新聞・雑誌・SNS などに貧困について投稿しましょう。
- ・生産者を貧困に追い込まないための公正な貿易 = フェアトレードの製品を購入し、その商品の魅力を伝えましょう。
- ・NGO のボランティア活動、スタディツアーに参加し、友達や家族に報告しましょう。
- ・勉強会や講演会などに参加し、世界の貧困の現状を友達や家族に伝えましょう。

周りの人の、関心を高めるには？

- ・学校などでミーティングを開いて話し合いましょう。グループを作り、広めましょう。
- ・講演会や上映会など「伝える」ためのイベントを企画してみましょう。
- ・コンサートを開きましょう。
- ・文章やアート作品を作成し発表しましょう。
- ・演劇部などで MDGs に関する演劇を披露しましょう。

あなたの「想い」を伝え、

世界の貧困をなくしていく仲間を増やしていきましょう。





II. 「政府」に私たちの声を届けましょう

～「みんな」の声を合わせましょう～

「政府は、私の言うことなんて聞いてくれるのだろうか・・・？」

そんなことを思っていないですか？

想像してみてください。あなたが、もしも政治家になったとします。

住民一人が「近くの道を直して」と電話してきた。でも、たった“一人”ならば、気にも留めないでしょう。

ですが、もし 1000 人があなたに電話をしてきたら？「何かしないと」思うのではないのでしょうか。

私たちが結束し、大きな声で訴えかければ、何かができるのです。

では、どうすれば政府は動いてくれるのでしょうか？

わたしたちにできることの例

●もうすでに始まっているキャンペーンに加わりましょう

既に始まっているキャンペーンなどに加われれば、貧困を解決するためにどのようなことをしているのかを

知ったり、そのような活動に参加している人たち

からいろいろなことを教わることができます。

大きなグループに加わることで、より良い結果を生み出す、または経験できるでしょう。

●自分の選挙区の国会議員にメッセージを送ろう！

日本では、途上国向けの援助が年々減少しており、貧しい国の貧困をなくすための援助もあまり増えていません。その大きな理由は、政治家の多くが、「一般国民は貧しい国のことなどに興味を持っていない」と考えており、貧困をなくすための援助を増やすために本気で行動していないからです。



藤田幸久財務副大臣（右）に 2011 年のスタンド・アップの報告書を手渡す「動く→動かす」の津山直子代表。（2012 年 2 月）

そこで大切なのは、あなたの選挙区から選出されている国会議員に対して、「世界の貧困をなくしたいと真剣に考えている国民・市民がここにいる」と伝えることです。



もし可能なら、スタンド・アップに参加したグループや家族の皆さんで話し合い、自分の選挙区の政治家に、丁寧に想いをしたためた手紙やファックス、メールを書いてみましょう。多くの政治家が、ウェブサイト「ご意見・ご要望」のページを持っていますので、そこに送ることもできます。また、議員事務所のFAX 番号がわかれば、ファックスするのが効果的です。

●「動く→動かす」に聞いてみよう！

「スタンド・アップ」を呼びかけている NGO のネットワーク「動く→動かす」では、政府や国会議員向けの政策提言活動も行なっています。あなたが「政府を動かす」ことに興味を持ったら、今、どんな活動があるのか、また、あなたが参加できるような活動が行われているかどうかについて、「動く→動かす」に聞いてみましょう。事務局のスタッフが答えてくれます。

「動く→動かす」連絡先

◎電話：03-3834-6902（アフリカ日本協議会 内）

◎メール：office@ugokuugokasu.jp

政府や政治家など、「政策を決める」人たちへの働きかけは、なかなか距離が遠く、難しいと思われるかもしれません。しかし、「もう一步踏み出したい」と思われる方は、ぜひとも積極的に挑戦してみてください。「動く→動かす」では、皆様のそうした活動をサポートします。

**政策決定者に対して
アクションを起こしましょう**





スタンド・アップ キャンペーン 参加のてびき

2011 年 9 月 14 日（初版発行）

2012 年 9 月 23 日（第二版発行）

■編 集 動く→動かす パブリックモビリゼーションチーム

■編集協力 大原 幸、小野留理花（開発教育協会インターン）

■発 行 動く→動かす

E-MAIL info@standup2015.jp

TEL 03-3834-6902

URL <http://www.standup2015.jp>

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3 階

特定非営利活動法人アフリカ日本協議会 内



「動く→動かす」は、途上国の貧困問題に取り組む 60 団体以上の NGO が参加するネットワークです。発足は 2009 年 3 月。「貧困を生むしくみを変える」ことを目的に、スタンド・アップをはじめとするキャンペーンや政策提言などのアドボカシー活動を行っています。世界 100 カ国以上に拠点を持つ貧困解決のためのネットワーク Global Call to Action Against Poverty (GCAP) の日本版です。
